



県立三好病院

今月の特集：MRI 検査について



診療放射線科スタッフ一同
新しいメンバーを迎え頑張っています。

— 県立病院事業基本理念 —

県民に支えられた病院として 県民医療の最後の砦となる

◆ 新任医師紹介 ◆



内科（消化器内科）
久保謙一郎 医師



泌尿器科
湊 淳 医師



眼科
藤野 祐子 医師



整形外科
手束 文威 医師

MRI検査について

放射線科 吉田秀策



MRI検査とは

MRI (Magnetic Resonance Imaging : 磁気共鳴画像) 検査は磁石とラジオ波 (電波の一種)を利用して人体の断層画像を撮像する方法です。三好病院では年間約3000件の検査が行われていますが、頭部・腰椎・頸椎などの検査が大部分を占めています。



MRI検査の原理

MRI装置は超伝導磁石が組み込まれた円筒状の構造をしており、内部には磁石による強い磁場が発生しています。円筒内に横になった人体にラジオ波を加えると体内の水素原子が共鳴し、ラジオ波を止めると元の状態に戻っていきます。その過程で発生する微弱な電波を受信してコンピュータにより画像化したものがMRI画像です。



MRI検査の注意事項

MRI検査室には磁石によって引きつけられる金属類や破損のおそれのある磁気製品などは持ち込むことができませんので、次のような注意点があります。

◇ MRI検査を受けられない方

- ・心臓ペースメーカー、植込み型除細動器を使用されている方
- ・金属性の人工心臓弁を入れられている方
- ・人工内耳を埋め込まれている方
- ・可動性義眼を装着されている方

◇ MRI検査が受けられないことがある方

- ・手術などにより体内・体表に金属製品 (脳動脈瘤クリップ、人工関節、シャントバルブ、ステントなど) が使用されている方
- ・妊娠または妊娠の可能性のある方 胎児への影響が十分にわかりません。
- ・閉所恐怖症のある方
- ・入れ墨を入れている方 火傷する危険性があります。

◇ 持ち込みが禁止されるもの

- ・磁気カード類 (診察券、キャッシュカードなど)
- ・ヘアピン、ネックレス、ピアス、時計、硬貨、携帯電話などの金属製品
- ・取り外しのできる入れ歯、エレキバン、ホカロン、湿布など
- ・カラーコンタクトレンズ

◇ 化粧品について

マスカラ、アイライン、アイシャドウなどの化粧品の中には**金属を含んでいる物**があります。皮膚などに影響を及ぼす場合もありますので避けて下さい。



検査中のお願い

検査時間は**30分程度**です。

検査中は大きな音がしますので防音用のヘッドホンを付けていただきます。
検査台に仰向けに寝て、なるべく安静にして動かないで下さい。
腹部の検査の場合には10秒程度の息止めをしていただくことがありますが、その時はマイクを通してお知らせします。
検査中に何か変わったことがありましたらブザーのボタンを押してください。
操作室のスタッフに届くようになっています。



造影MRI検査について

MRI検査ではより詳しい検査を行うために造影剤を使用することがあります。造影剤は安全な薬剤ですが、1～2%の頻度で副作用が発生すると報告されています。主な副作用は、はきけ、嘔吐、じんま疹などの軽症のものですが、極めてまれに血圧低下、呼吸困難などの重篤な副作用が起きることがあります。治療が必要とされる場合には速やかに適切な処置を行うようにしています。体質や病気によっては副作用が生じやすくなったり病気を悪化させることがあるため、次のような方は注意が必要となります。検査前に確認しますのでその際にお知らせ下さい。

- ・ MRI検査やCT検査の造影剤により副作用を生じたことのある方
- ・ 花粉症や食べ物・薬にアレルギーのある方
- ・ 喘息のある方
- ・ 心臓病、腎臓病、肝臓病、糖尿病、甲状腺などに病気のある方
- ・ 授乳中の方 (造影剤が母乳に移行するため)



検査当日の食事について

造影MRI検査を受けられる方または上腹部MRI検査を受けられる方には食事制限があります。そのほかの検査の場合には食事制限はありません。

検査の4時間前からは食事をお控え下さい。
造影検査の場合に嘔吐などの副作用が起きた時、嘔吐物が気管に入るのを防ぐため腹部検査の場合には食物の影響で詳しいことがわかりにくくなるため水、お茶、ジュースなどの水分はご自由にお飲み下さい。水分補給によって副作用の発現率が低くなります。

《注意》牛乳などの乳製品は胃の中で胃酸によって固まりますのでお控え下さい。

服用中のお薬は医師の指示がない限り、通常通り服用して下さい。
検査後はいつものように食事をとっていただいて結構です。造影検査を受けられた方は造影剤を体外へ早く排泄するために水分を多めにお飲み下さい。



最後に

MRI検査は病気やけがの診断に大変有用な検査です。不安なことやご不明な点がありましたら、担当医または放射線科医に遠慮なくご相談下さい。



薬のことをもっと知ろう

第3回

かかりつけ薬局について



かかりつけ薬局をもつように言われたのですがどうしてですか？



患者さんが安全にお薬を服用できるようにするためです。



「かかりつけ薬局」というのは、医師の処方せんを持って行って調剤してもらったり、一般用医薬品（OTC医薬品）を購入する薬局を**一つに決めておく**という考え方のことです。何故かかりつけ薬局を決めておくといいかという、例えばいくつかの病院・医院にかかり、それぞれに処方せんが出されたとすると、それぞれの医師の処方には問題がなくても、それぞれの病院・医院から出された処方の中に同じ成分の薬が重複して処方されていたり、相互作用が起こる可能性のある薬が処方されていたりすることがあることがあります。でも、それらの処方せんを一つの薬局で調剤してもらえば、**薬の重複とか相互作用の可能性の有無などを確認した上で調剤してくれるので安全**です。

また、薬局では、それぞれの患者さん毎に「薬に関する記録」（これを「薬歴」と呼んでいます）を付けていますので、処方せんを別々の日に薬局に持っていっても、その薬歴に基づいて同じように薬の重複や相互作用、過去に副作用の経験がある薬が処方されていないかなどを確認した上で調剤してもらえます。薬を安全に使っていただくためのツールとして「お薬手帳」というものがあります。



「お薬手帳」は、皆さんが飲んでる薬の名前や量、使い方、注意すること、これまでに副作用が出た薬の名前などを書いておく手帳のことです。

お薬手帳があると、いつもと違う病院に行ったりする時や、2カ所以上の病院を受診する時にこれを見せることで従来の病歴、医薬品歴が理解され、治療方針を決めるのに役立ちます。

薬局では薬の名前、服用時間、回数、量、服用方法の注意を書き込んでくれます。

自分では市販のくすり、サプリメント（健康食品）を飲んでいる時は、名前や、何回服用したかを書いておきましょう。くすりの副作用やアレルギーが起きた時は、その内容を書いておきましょう。



お薬を安全に使っていただくためにお薬手帳をぜひご活用下さい!!



発行 徳島県立三好病院 広報委員会

〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ815-2

TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910

HP <http://www.tph.gr.jp/miyoshi/>